

日根野中だより

令和5年6月23日発行 日根野中学校 校長 武田 博之

沖縄「慰霊の日」に考える…

〜〜〜今を生きる私たちにもつながっています〜〜〜

「みるく世の謳(うた)」

一昨年度、「慰霊の日」の平和祈念公園内で行われた「沖縄 全戦没者追悼式」の中で、宮古島市立西辺中学校の女子生徒が読み上げた詩です…

12歳 初めて命の芽吹きを見た 生まれたばかりの姪は 小さな胸を上下させ
手足を一生懸命に動かし 瞳に湖を閉じ込めて「おなかすいたよ」「オムツを替えて」と
力一杯、声の限りに訴える 大きな泣き声を そっと抱き寄せられる今日は、平和だと思ふ
赤ちゃんの泣き声を 愛おしく思える今日は 穏やかであると思ふ その可愛らしい重みを
胸に抱き 6月の蒼天を仰いだ時 一面の青を分断するセスナにのって 私の思いは76年
の時を超えていく

この空はきっと覚えている 母の子守唄が空襲警報に消された出来事を 灯されたばかり
の命が 消されていく瞬間を 吹き抜けるこの風は覚えている うちな一ぐちを取り上げら
れた沖縄を 自らに混じった鉄の匂いを踏みしめるこの土は 覚えているまだ幼さの残る手
に 銃を握らされた少年がいた事を おかえりを聞くことなく散った 父の最後の叫びを

私は知っている礎を撫でる皺の手が 何度も拭ってきた涙 あなたは知っている あれは
現実だったこと 煌びやかなサンゴ礁の底に 深く沈められつつある悲しみが存在すること
を 凜と立つガジュマルが言う 忘れるな 本当にあったのだ 暗くしめった壕の中が 憎
しみで満たされた日が 本当にあったのだ 漆黒の空屍を 避けて逃げた日が 本当にあっ
たのだ血色の海 いくつもの生きるべき命の大きな鼓動が 岩を打つ波にかき消され 万歳
と投げ打たれた日が 本当にあったのだと…

6月を彩る月桃が揺蕩(たゆた)を忘れないで 犠牲になっていい命などあって良かった
はずがない事を忘れないで 壊すのは簡単だという事を もろく 危うく だからこそ守る
べきこの暮らしを忘れないで 誰もが平和を祈っていた事をどうか忘れないで 生きること
の喜びを あなたは生かされているのよと いま摩文仁の丘に立ち私は歌いたい 澄んだ酸
素を肺いっぱいにとりこみ 今日生きている喜びを 震える声帯に感じて決意の声高らかに

♪ みるく世めなうらば世や直れ 平和な世界は私たちがつくるのだ

♪ 共に立つあなたに感じて欲しい 滾(たぎ)る血潮に流れる先人の想い

♪ 共に立つあなたと歌いたい 蒼穹(そうきゅう)へ響く癒しの歌

♪ そよぐ島風にのせて歌いたい 平和な未来へ届く魂の歌

私たちは忘れないこと あの日の出来事を伝え続けること 繰り返さないこと
命の限り生きること 意の歌を歌いたい

いま摩文仁の丘に立ち あの真太陽まで届けと祈る みるく世めなうらば世や直れ
平和な世がやってくるこの世は きっと良くなっていくと 繋がれ続けてきたバトン
素晴らしい未来へと 信じ手渡されたバトン 生きとし生けるすべての尊い命のバトン
今、私たちの中にある暗黒の過去を溶かすことなく あの過ちに再び身を投じることなく
繋ぎ続けたいみるく世を 創るのはここにいるわたし達だ

78年前の出来事は「過去」のものではなく、今を生きる私たちにつながっています。
この詩を中学生にもぜひ読んでほしいと思います。新聞やネットには全文が掲載されていま
すので、ぜひ家庭でも話題にしていただければと思います。 「平和を求める仲間として」…

沖縄県は旧日本軍の組織的な戦闘が終わったとされる6月23日を「慰霊の日」としています。今日がそ
の日にあたります。78年の年月が流れていますが、その当時のことをできる限り、子どもたちに伝えてい
く…それが教師としての責務であると考えています。

<心の風景> 願い…

歴史を知ると、今がある、その理由がわかる… 将来、
何を考え、何を大事にするべきかがわかってくる…
まずは、しっかりと史実を捉えてほしい…その上で、
これから正しい判断ができる人間になり幸せになって
欲しい…それが先生たちの願いです…

はるか遠いところに
幸せを探し求めるのでなく
自分の身のまわりや
足元を見つめ直すこと…
本当の幸せは
必ず近くにありま…